

SIG 住まいづくり勉強会のご案内

復興公営住宅における高齢者・障害者への配慮の実態

～宮城県における設計・監理の現場から～

2011年3月に発災した東日本大震災から10年以上の月日が経ちました。未だ自宅のある地域に戻ることでできない被災者も居られますが、多くの方々が仮設住宅を出て、新しい住まいに移られておられます。

2014年から宮城県に建築の専門職員として派遣されておられた、SIG 住まいづくりメンバーの大河内明彦さんが、7年1ヶ月の任務を終えて戻ってこられました。阪神・淡路大震災の頃よりも、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する情報や知識は多く、復興公営住宅の仕様もより良くなったと思っておりましたが、現地で設計、現場監理に携わって来られた大河内さんによるとそうでもない実態がありました。

久しぶりのSIG 住まいづくりの勉強会として、大河内さんから実態を聞く機会を設けました。参加者の方々にも、仮設住宅、公営住宅の設計や調査に関わられた経験のある方が多いと存じます。参加者からの話もお聞きしながら、なぜ、法整備も整い、多くの知見もある現代の公営住宅の建設において、高齢者・障害者への不十分な配慮となってしまうのか、どこに問題があるのか、何が課題なのかについて議論したいと思います。

日時 2022年6月4日(土) 16:00～18:00

形態：オンラインセミナー（申込者にZoomのURLをお知らせします）

参加費：無料

申込先：s-kasuya@reha.kobegakuin.ac.jp（神戸学院大学・糟谷）

氏名、所属、会員資格、連絡先を明記の上、お申し込みください